

平成24年度病虫害発生予察予報第4号(7月)

平成24年7月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
水稲(早期稲)	いもち病(穂いもち) 紋枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ コブノメイガ アザミウマ類	並 少 並 並 少 少 やや少 やや少
水稲(普通期稲)	いもち病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ トビイロウンカ フタオビコヤガ スクミリンゴガイ	並 並 並 少 並 やや少 やや多
カンキツ	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	並 並 並 並 やや多

I 気象予報(高松地方気象台6月29日発表)

＜予想される向こう1か月の天候＞ 6月30日から7月29日

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量、日照時間の確率は以下のとおりです。

前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。後半は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。

＜確率＞

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1か月	気 温	四国地方	30	40	30
	降 水 量		30	30	40
	日照時間		30	40	30
1週目	気 温	四国地方	10	30	60
2週目			20	40	40
3～4週目			20	40	40

＜予報の対象期間＞

1か月： 6月30日(土)～ 7月29日(日)

1週目： 6月30日(土)～ 7月 6日(金)

2週目： 7月 7日(土)～7月13日(金)

3～4週目： 7月14日(土)～ 7月27日(金)

II 病虫害発生予想

1. 水稻(早期稲)の病虫害

1) いもち病(穂いもち)

予 想 発生時期:並 / 発生量:並

根 拠

(1)早期稲栽培地帯の6月の巡回調査結果では、東部、中央部、中西部で少なく、西部で平年に比べやや多発生であった。

(2)向こう1か月 予報によると、降水量は平年並み～やや多く、日照時間もやや少ないことが予想されることから、感染好適日が多く発生すると見られる。今後の天候によっては、葉いもち、穂いもちが多発するおそれがあり、特に発生の多い地区ではその発生動向に十分注意する必要がある。

対 策

(1)気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら収穫前使用日数に留意し、まわりへの飛散防止に努めながら速やかに薬剤散布を行う。特に上位葉への発病が多いときは、穂いもちが増加することから、出穂前を目安に薬剤散布を行う。

(2)窒素過多は発病を助長するので、穂肥の施用は稲の生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生時期: 並 / 発生量:並

根 拠

(1)現在、県西部で発生がやや多い。

(2) 今後の気象予報からは大きな増加はなく、平年並で推移すると思われる。

対 策

(1) 近年、萎縮病の発生はほとんどなく、低密度時は薬剤散布は必要ないが、出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪化することがあるので、その場合は周辺作物への飛散防止に努めながら、他の病虫害とあわせて防除を行う。

3) セジロウンカ

予 想 発生時期： 並 / 発生量：並

根 拠

(1) 現在、予察灯への飛来は確認されていないが、一部のほ場で発生が見られる。

(2) 九州への飛来情報や高知県への飛来予測情報もだされている。今後、梅雨前線の北上により飛来することが予想されるが、現在の発生状況から平年並の発生と考えられる。

対 策

(1) 異常飛来等で、成虫数が株当たり5頭以上になったときは、周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

2. 水稻(普通期稻)の病虫害

1) いもち病

予 想 発生時期：並 / 発生量：並

根 拠

(1) 県西部で発生が多い。

(2) 向こう1か月予報によると、降水量は平年並み～やや多く、日照時間は平年並み～やや少ない予想であるため、感染好適日が多く発生すると見られる。今後の天候によっては、葉いもちが多発するおそれがあり、その発生動向に注意を要する。

対 策

(1) 補植用苗や余り苗を水田やその周辺に放置している場合は、本病の発生源となるので除く。

(2) 箱施用剤を散布していない場合、初発生を認めたら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに薬剤散布を行う。

(3) 適正な肥培管理を行い、窒素過多を避ける。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生時期： 並 / 発生量：並

根 拠

(1) 現在、県中央部で発生がやや多い。

(2) 今後の気象予報からは大きな増加はなく、平年並で推移すると思われる。

対 策

(1) 近年、萎縮病の発生はほとんどなく、低密度時は薬剤散布は必要ないが、出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪化することがあるので、その場合は周辺作物への飛散防止に努めながら、他の病虫害とあわせて防除を行う。

3. カンキツの病虫害

1) 黒点病

予 想 発生時期：並 / 発生量：並

根 拠

(1) 現在、東部の中晩柑類で、発生がやや多くなっているが、その他地域では平年並～少なめの発生である。

- (2)向こう1か月予報によると、気温は平年並～やや高く、降水量は平年並～やや多い見込みで、現在の発生量が多い県東部の中晩柑類では、平年に比べてやや多めの発生で推移すると思われる。

対 策

- (1)この時期は感染源となる枯枝量が増加する時期であり、できるだけ枯枝を除去するとともに、防風林の整備等、枯枝の発生が少なくなるような管理に努める。
- (2)前回の防除からの累積雨量が 250mm を超すか、25日以上経過すれば次の薬剤散布を行う。

2) ミカンハダニ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1)現在、県全域で平年に比べてやや少～平年並の発生量である。
- (2)向こう1か月予報から多発する要因は少ないと思われ、平年並の発生で推移すると思われる。

対 策

- (1)夏ダニ(6月～8月に発生するダニ)は寄生葉率30%を目安に防除を行う。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同じ種類の薬剤の連用を避け、周辺作物への飛散防止に努めながら散布ムラがないよう丁寧に防除する。

3) 果樹カメムシ類

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1)県東部で平年より多めの発生が見られている、県中西部においても巡回調査では見られなかったが、フェロモントラップへの誘殺が6月中旬から増加している。

対 策

- (1)今後、次世代の成虫の発生量が多くなることが懸念される。園内をよく観察し、発生を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら遅れないように薬剤防除を行う。

県民の皆様提供に提供する農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット) : <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/byoki/boujoshou/>
 - ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
 - ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
 - ③病虫害発生予察技術資料
 - ④新しく問題となっている病虫害 etc.
2. こうち農業ネットサービス※ ※当方で提供する情報の閲覧は無料です (通信料は別途必要となります)。
 - ・携帯電話を使った病虫害関連情報 (どなたでも利用可能です)
 - <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/> (Iモード)
 - トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報: (ezweb)
 - 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報: (ヤフー)
 - ①病虫害発生予察情報 (概要)